

令和元年6月11日現在

機関番号：82512

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26380227

研究課題名(和文) 反アパルトヘイト国際連帯運動の研究：日本の事例を中心として

研究課題名(英文) International Solidarity against Apartheid: The Case of Japanese Citizens' Movements

研究代表者

牧野 久美子 (Makino, Kumiko)

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究企画部・海外研究員

研究者番号：30450505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本で1960年代から90年代にかけて展開した反アパルトヘイト国際連帯運動について、文献調査や聞き取り調査を通じて、(1)日本の運動と南部アフリカの解放運動組織や他国の反アパルトヘイト運動との関係、(2)日本国内の反アパルトヘイト運動のネットワークの形成、(3)「名誉白人」という言葉に象徴される日本とアパルトヘイトとの関わりを焦点化した運動言説の特徴、などを明らかにすることができた。また、本プロジェクトの過程で日本反アパルトヘイト委員会の関係者から立教大学共生社会研究センターへの運動資料の寄贈が実現し、同資料群は「反アパルトヘイト運動関連資料」として公開された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界各地で展開した反アパルトヘイト運動は、社会正義の実現を求めて人々が国境を越えて連帯する「トランスナショナルな社会運動」の先駆的事例であった。近年、関連研究が蓄積されてきているが、研究対象は欧米諸国の反アパルトヘイト運動に偏ってきた。本研究は、日本の事例研究を通じてその偏りを是正し、グローバルな反アパルトヘイト運動のネットワークや多様性の理解の深化に貢献することができた。また、反アパルトヘイト運動のアーカイブ構築が世界各地で進められている状況を踏まえ、日本の反アパルトヘイト運動のアーカイブの保存・公開を、運動関係者および立教大学共生社会研究センターの協力を得て実現した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research project was to trace the historical development of the anti-apartheid movement in Japan, which started in the 1960s and continued until the early 1990s, when the apartheid regime fell and was replaced by a democratic government in South Africa. Based on interviews and other primary and secondary sources, we explored how Japanese activists initially established and maintained contacts with liberation movements as well as anti-apartheid movements in other countries, and how they developed a network of anti-apartheid movements in Japan by framing apartheid as an issue having a direct link to Japanese society. The findings were published in both English and Japanese, and were presented at several international workshops. We also facilitated the donation of archives of the Japan Anti-Apartheid Committee (JAAC) to Rikkyo Research Center for Cooperative Civil Societies, as we considered it important to keep records of the movements and make them accessible for public.

研究分野：国際関係論、アフリカ地域研究

キーワード：南アフリカ 日本 反アパルトヘイト 国際連帯 市民運動 トランスナショナル社会運動 アーカイブズ 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

南アフリカで1990年代初頭まで継続していたアパルトヘイト体制に対しては、南アフリカの人々により解放運動が組織されたのに加えて、世界各地で国際連帯運動が展開された。反アパルトヘイト国際連帯運動は、アフリカ民族会議 (African National Congress: ANC) をはじめとする解放運動組織への支援や、経済制裁の呼びかけなどを通じて、アパルトヘイト廃絶に向けた国際世論の形成に貢献した。

反アパルトヘイト国際連帯運動については、2000年代以降、南アフリカ民主教育基金 (South African Democracy Education Trust: SADET) の「民主主義への道」シリーズで「国際連帯」をテーマとした巻が編まれたほか (SADET ed., *The Road to Democracy in South Africa, Volume 3, International Solidarity, Parts 1 & 2*, Pretoria, UNISA Press, 2008) 2009年の *Journal of Southern African Studies* 誌上でも特集が組まれるなど (“Liberation Struggles, Exile and International Solidarity,” Volume 35, Issue 2) 南部アフリカ現代史の重要な一側面として研究関心が高まりつつある状況にあり、欧米諸国を中心に各国それぞれの運動についても研究が蓄積されてきていた。

そのようななか、日本の反アパルトヘイト運動に関しては、森川純の一連の研究を除いて (森川純『南アフリカと日本』同文館、1988; Jun Morikawa, *Japan and Africa: Big Business and Diplomacy*, London, Hurst & Co., 1997) ごく限られた先行研究しか存在していなかった。折しも、本研究の開始時期には、反アパルトヘイト運動の研究対象が欧米諸国に偏ってきたとの反省から、その偏りを是正しようとする動きが国際学界において高まりつつあったことから、本研究は時宜を得たものとなり、後述のように本研究実施過程で複数の国際的な出版企画に参加し、英文での成果発信につなげることができた。

2. 研究の目的

本研究は、日本において1960年代から1990年代にかけて行われた反アパルトヘイト運動について、運動参加者のインタビューやアーカイブズ調査などを通じて、その生成・展開の過程や運動がもっていた国内外のネットワーク、またその社会運動としての特徴を明らかにすることを主な目的とするものであった。また、運動資料の多くが一般公開されていなかったことから、運動アーカイブズの保存・公開の道を探った。

3. 研究の方法

本研究においては、(1)関連文献の収集や国内外の研究者との意見交換を通じた研究動向把握、(2)日本で反アパルトヘイト運動に参加した人びとへの聞き取り調査、(3)日本各地の反アパルトヘイト運動の一次資料の収集・分析・整理、(4)国内外の図書館やアーカイブズでの資料調査、を主な研究方法として採用した。

具体的には、本研究を通じて、(1)南アフリカおよびスウェーデンでの海外調査を行い、関連書籍・論文等を積極的に収集するとともに現地の研究者と意見交換を実施し、(2)国内での聞き取り調査については、東京のほか、大阪、名古屋、広島、札幌においても実施した。海外現地調査および国内での聞き取り調査は、研究代表者の牧野久美子と研究協力者 (研究開始当初は連携研究者) の津山直子氏が共同あるいは分担して実施した。また、(3)日本の反アパルトヘイト運動の一次資料については、研究協力者の楠原彰氏および下垣桂二氏の全面的な協力のもと、両氏から立教大学共生社会研究センターへの寄贈が実現し、同資料群は「反アパルトヘイト運動関連資料」として公開されるに至った。また、一部の資料についてはデジタル化のうえ、研究協力者の立岩真也氏 (当初は連携研究者) と齊藤龍一郎氏の協力により、立命館大学生存学研究センターのウェブサイト (arsvi.com) 上で公開した。また、(4)アーカイブズ調査については、研究代表者の牧野久美子が日本国内では立教大学共生社会研究センターおよび外交史料館、海外では南アフリカのフォートヘア大学、西ケープ大学、ウィットウォーターズランド大学、またイギリスのオクスフォード大学で実施した。

4. 研究成果

世界各地で展開した反アパルトヘイト運動は、社会正義の実現を求めて人々が国境を越えて連帯する「トランスナショナルな社会運動」の先駆的事例として、2000年代以降、関連研究が蓄積されてきたが、研究対象が欧米諸国の反アパルトヘイト運動に偏るといった問題があった。本研究は、日本の事例研究を通じてその偏りを是正し、グローバルな反アパルトヘイト運動のネットワークや多様性の理解の深化に貢献することができた。また、反アパルトヘイト運動と日本の他の国際連帯運動や反差別運動、教会、労働組合、NGO などとの連携関係を明らかにすることにより、日本国内の社会運動研究にも一定の貢献をすることができた。また、従来の日本・南アフリカ関係研究は、政府間関係および経済関係に焦点を当てるものが主であったが、本研究は両国の市民間で築かれた関係の一端を明らかにすることによって、日本・南アフリカ関係の重層性を示すことができた。

研究成果については、日本アフリカ学会（2014 年度、2018 年度）Association for Asian Studies in Africa（ガーナ、2015 年度）日本国際政治学会（2017 年度）で学会報告を行うとともに、同志社大学（2014 年度）ステレンボシュ大学（南アフリカ、2016 年度）で開催された国際会議で報告を行った。また研究成果の出版については、1. で述べた通り、反アパルトヘイト運動研究の地域的偏りを是正しようとする動きが国際学界において高まりつつあったことから、本研究は時宜を得たものとなり、研究初期に実施した国内外の研究者との意見交換がきっかけとなって、複数の国際的な出版企画に参加することができた。

公開研究会やインタビューの形で実施した反アパルトヘイト運動に参加した人びとへの聞き取り調査の内容の一部は、テープ起こしをしたうえで発言者に内容確認を依頼し、文字資料としてまとめた。また、立教大学共生社会研究センターへの「反アパルトヘイト運動関連資料」寄贈を記念して 2016 年に立教大学で実施した公開シンポジウムの記録を後日公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

楠原彰「反アパルトヘイト運動の経験を振り返る：アフリカ行動委員会の運動を中心に（特集 いま日本の反アパルトヘイト運動から学ぶ）」『アフリカ Now』102、アフリカ日本協議会、2015、4-14

Makino, Kumiko, “The Framing Discourses of ‘Honorary White’ in the Anti-Apartheid Movement in Japan,” IDE Discussion Paper No. 575, Chiba: IDE-JETRO, 2016 <http://hdl.handle.net/2344/1527>

峯陽一、牧野久美子、津山直子「峯陽一さんに聞く 反アパルトヘイト運動から研究へ 私の南部アフリカとの関わり」『アフリカ NOW』105、アフリカ日本協議会、2016、2-11.

牧野久美子、佐竹純子、くぼたのぞみ、津山直子「反アパルトヘイト運動と女性、文学」『アフリカ NOW』110、東京：アフリカ日本協議会、2018、2-13

立教大学共生社会研究センター編、楠原彰・下垣桂二・牧野久美子ほか「公開講演会『反アパルトヘイト運動を記憶する』(2016 年 12 月 17 日開催)講演・質疑の記録」立教大学共生社会研究センター、2018 <http://hdl.handle.net/11008/1350>

牧野久美子「マンデラ生誕 100 周年を迎えた南アフリカ」『シノドス』253、2018 <http://hdl.handle.net/2344/00050625>

吉田昌夫（聞き手：牧野久美子）「吉田昌夫さんが語る：アフリカ研究者が市民活動に関わること」『アフリカ NOW』112、アフリカ日本協議会、2019、2-9

牧野久美子「2019 年総選挙を控えた南アフリカの政治情勢」『アフリカレポート』57、アジア経済研究所、2019、47-51 <http://hdl.handle.net/2344/00050853>

〔学会発表〕(計 8 件)

牧野久美子「日本における反アパルトヘイト運動」日本アフリカ学会、京都大学、2014 年 5 月 24 日

Makino, Kumiko, “Methods and Strategies of the Anti-apartheid Movements in Japan,” Africa and Asia Entanglements in Past and Present (GRM International Conference), 26 July 2014

牧野久美子「日本の反アパルトヘイト運動」武蔵野アフリカ研究会、2015 年 4 月 16 日

Makino-Yamashita, Kumiko, “The Anti-apartheid Movement in Japan,” Africa-Asia: A New Axis of Knowledge, African Association of Asian Studies, University of Ghana, 24-26 September 2015

Makino, Kumiko “Travelling for Solidarity: Japanese Anti-apartheid Activism and South African Freedom Fighters,” Migration and Agency in a Globalising World: Afro-Asian Encounters, Stellenbosch University, South Africa, 27-29 May 2016

楠原彰・下垣桂二・牧野久美子「反アパルトヘイト運動を記憶する」立教大学共生社会研究センター主催公開講演会、立教大学、2016 年 12 月 17 日

牧野久美子「反アパルトヘイト国際連帯と日本の市民運動」日本国際政治学会（トランスナショナル分科会）神戸国際会議場、2017 年 10 月 27 日

牧野久美子・津山直子「反アパルトヘイト運動の記憶と記録」日本アフリカ学会（フォーラム報告）北海道大学、2018 年 5 月 26 日

〔図書〕(計 7 件)

Makino, Kumiko, “Methods and Strategies of the Anti-Apartheid Movement in Japan,” in Yoichi Mine and Scarlett Cornelissen eds., *Africa and Asia Entanglements in Past and Present: Proceedings of GRM International Conference, Doshisha University, July 26-27, 2014*, Kyoto, GRM Program, Doshisha University, 2014, 103-114.

牧野久美子「反アパルトヘイト国際連帯活動研究の視角」重富真一編『社会運動理論の再

検討：予備的考察（基礎理論研究会成果報告書）』アジア経済研究所、2015、52-66。
牧野久美子「アパルトヘイト（人種隔離政策）」「対南アフリカ制裁」「南アフリカ国民統一政府」広島市立大学広島平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』法律文化社、2015、12,393,609。
Makino, Kumiko, “Travelling for Solidarity: Japanese Activists in the Transnational Anti-Apartheid Movement,” in Scarlett Cornelissen and Yoichi Mine, eds., *Migration and Agency in a Globalizing World*, Palgrave Macmillan, 2018, 247-270。
Makino, Kumiko and Naoko Tsuyama, “The Anti-Apartheid Solidarity Movement in Japan: Actors, Networks and Issue,” in SADET (South African Democracy Education Trust) ed. *The Road to Democracy in South Africa, Volume 3, International Solidarity, Part 3*, Austin, Pan African University Press, 2018, 1623-1651
牧野久美子「一党優位と民主主義：南アフリカにおける民主主義の揺らぎ」川中豪編『後退する民主主義、強化される権威主義』ミネルヴァ書房、2018、129-157
Makino, Kumiko “Afro-Asian Solidarity and the Anti-apartheid Movement in Japan,” in Anna Konieczna and Rob Skinner, eds., *A Global History of Anti-apartheid: ‘Forward to Freedom’ in South Africa*, Palgrave, 2019, 265-287

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
http://www.arsvi.com/i/aajp_top.htm

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：楠原 彰

ローマ字氏名：(KUSUHARA, Akira)

研究協力者氏名：斉藤龍一郎

ローマ字氏名：(SAITO, Ryoichiro)

研究協力者氏名：下垣桂二

ローマ字氏名 : (SHIMOGAKI, Keiji)

研究協力者氏名 : 立岩真也

ローマ字氏名 : (TATEIWA, Shinya)

研究協力者氏名 : 津山直子

ローマ字氏名 : (TSUYAMA, Naoko)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。